



# パフォーマンス カウンタ（Performance Counters）

- [カウンタ, on page 1](#)
- [perfmom カウンタ データのローカル ロギング, on page 5](#)
- [Perfmom ログ ビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールの ログ ファイル, on page 8](#)
- [トラブルシューティング, on page 12](#)

## カウンタ

### パフォーマンス クエリーを使用したカウンタの追加

perfmom カウンタを選択し、表示するためにクエリーを使用できます。機能ベースのカウンタのセットを表示し、1つのカテゴリに保存するように、perfmom カウンタを整理できます。Unified RTMT プロファイルを保存した後は、関心のあるカウンタにすばやくアクセスできます。

Unified RTMT は、perfmom カウンタをチャート形式または表形式で表示します。チャート形式では、perfmom カウンタ情報が折れ線グラフを使用して表示されます。作成した各カテゴリ タブの [Perfmom モニタリング (Perfmom Monitoring)] ペインに最大 6 つのチャートを表示でき、1つのチャートに最大 3 つのカウンタを表示できます。カテゴリを作成した後で、チャート形式から表形式に、またはその逆に表示を変更することはできません。



**Tip** [Perfmom モニタリング (Perfmom Monitoring)] ペインでは、1つのチャートに最大 3 つのカウンタを表示できます。チャートに別のカウンタを追加するには、カウンタをクリックして [Perfmom モニタリング (Perfmom Monitoring)] ペインにドラッグします。この操作を繰り返して、最大 3 つまでカウンタを追加します。

デフォルトでは、Unified RTMT は perfmom カウンタをチャート形式で表示します。また、perfmom カウンタを表形式で表示するように選択することもできます。perfmom カウンタを表形式で表示するには、新しいカテゴリを作成するときに **Present Data in Table View** チェックボックスをオンにする必要があります。

## Procedure

---

- Step 1** [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス監視を開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- Step 2** モニタするカウンタを追加するサーバの名前をクリックします。  
ツリー階層が拡大し、すべての perfmon オブジェクトが表示されます。
- Step 3** 表形式でカウンタをモニタするには、ステップ 4 に進みます。チャート形式でカウンタをモニタするには、ステップ 9 にスキップします。
- Step 4** [編集 (Edit)] > [新規カテゴリ (New Category)] の順に選択します。
- Step 5** [名前を入力 (Enter Name)] フィールドに、タブの名前を入力します。
- Step 6** perfmon カウンタを表形式で表示するには、**Present Data in Table View** チェックボックスをオンにする必要があります。
- Step 7** [OK] をクリックします。  
入力した名前の新しいタブが、ペインの下部に表示されます。
- Step 8** 1 つ以上のインスタンスを指定した 1 つ以上のカウンタを選択して、表形式でモニタリングするには、次のいずれかの作業を実行します (この手順の残りのステップをスキップしてください)。
- 単一のカウンタをダブルクリックし、ダイアログボックスから単一のインスタンスを選択します。次に、**Add** をクリックします。
  - 単一のカウンタをダブルクリックし、ダイアログボックスから複数のインスタンスを選択します。次に、**Add** をクリックします。
- Tip** カウンタを表形式で表示した後に、チャート形式で表示するには、カテゴリ タブを右クリックし、**Remove Category** を選択します。カウンタはチャート形式で表示されます。
- Step 9** チャート形式のカウンタをモニタするには、次のタスクを実行します。
- a) モニタするカウンタを示すオブジェクト名の横のファイルアイコンをクリックします。  
カウンタのリストが表示されます。
  - b) カウンタ情報を表示するには、カウンタを右クリックし、[カウンタ モニタリング (Counter Monitoring)] をクリックするか、カウンタをダブルクリックするか、または [Perfmon モニタリング (Perfmon Monitoring)] ペインにカウンタをドラッグアンドドロップします。  
カウンタ チャートが [Perfmon モニタリング (Perfmon Monitoring)] ペインに表示されます。
-

## [パフォーマンスの監視 (Performance Monitoring)] ペインからのカウンタの削除

カウンタ チャート (表エントリ) は、メニューバーのメニューにある [チャート/表エントリの削除] メニュー項目を使用して削除できます。

不要になったカウンタは、[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインから削除できます。ペインからカウンタを削除するには、次の手順に従ってください。

### Procedure

次のいずれかの操作を行います。

- 削除するカウンタを右クリックし、[削除 (Remove)] を選択します。
- 削除するカウンタをクリックし、[Perfmon]>[チャート/表エントリの削除 (Remove Chart/Table Entry)] の順に選択します。

## カウンタ インスタンスの追加

カウンタ インスタンスを追加するには、次の手順に従ってください。

### Procedure

- Step 1** パフォーマンス モニタリング カウンタを検索して表示します。
- Step 2** パフォーマンス モニタリングのツリー階層で、パフォーマンス モニタリング カウンタをクリックし、[システム (System)]>[パフォーマンス (Performance)]>[カウンタ インスタンス (Counter Instances)] の順に選択します。
- Step 3** [インスタンスの選択 (Select Instance)] ウィンドウで、インスタンスをクリックし、次に、[追加 (Add)] をクリックします。  
カウンタが表示されます。

## カウンタ アラート通知のセットアップ

カウンタのアラート通知を設定するには、次の手順に従ってください。



- Tip** カウンタのアラートを削除するには、カウンタを右クリックし、[アラートの削除 (Remove Alert)] を選択します。オプションは、アラートを削除するとグレー表示されます。

## Procedure

---

- Step 1** パフォーマンス カウンタを検索して表示します。
- Step 2** カウンタのチャートまたは表から、アラート通知を設定するカウンタを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。
- Step 3** [アラートの有効化 (Enable Alert)] チェックボックスをオンにします。
- Step 4** [重大度 (Severity)] ドロップダウン リスト ボックスで、通知する重大度を選択します。
- Step 5** [説明 (Description)] ペインで、アラートの説明を入力して [次へ (Next)] をクリックします。
- Step 6** [しきい値 (Threshold)]、[次の値で算出 (Value Calculated As)]、[期間 (Duration)]、[頻度 (Frequency)]、および [スケジュール (Schedule)] ペインで設定値を設定します。ウィンドウで設定を入力したら、[次へ (Next)] をクリックして次のペインに進みます。
- Step 7** アラートの電子メールメッセージを送信するようにシステムを設定するには、[電子メールの有効化 (Enable Email)] チェックボックスをオンにします。
- Step 8** すでに設定されているアラートアクションをトリガーするには、[アラートアクションをトリガー (Trigger Alert Action)] ドロップダウン リスト ボックスから対象のアラートアクションを選択します。
- Step 9** アラートの新しいアラート アクションを設定するには、[設定 (Configure)] をクリックします。
- Note** 指定されたアラートがトリガーされたときに、システムはアラートアクションを送信します。
- [アラート アクション (Alert Action)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- Step 10** 新しいアラート アクションを追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。
- [アクション設定 (Action Configuration)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- Step 11** [名前 (Name)] フィールドに、アラート アクションの名前を入力します。
- Step 12** [説明 (Description)] フィールドにアラート アクションの説明を入力します。
- Step 13** アラート アクションの新しい電子メール受信者を追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。
- [入力 (Input)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- Step 14** アラート アクションの通知を受け取る受信者の電子メールまたは E ページ アドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- Step 15** ユーザ定義の電子メール テキスト ボックスに、電子メールに表示するテキストを入力し、[有効化 (Activate)] をクリックします。
- 

## カウンタの説明の表示

次に、カウンタの説明を取得する方法を示します。

## Procedure

- Step 1** 次のいずれかの操作を行います。
- Perfmon ツリー階層で、プロパティ情報が必要な対象のカウンタを右クリックし、[カウンタの説明 (Counter Description)] を選択します。
  - [RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT Performance Monitoring)] ペインで、カウンタをクリックし、メニューバーから [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [カウンタの説明 (Counter Description)] の順に選択します。

**Tip** カウンタの説明を表示し、データサンプリングパラメータを設定できます。

[カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウには、カウンタの説明が表示されません。この説明には、ホストアドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、およびカウンタの内容の概要が含まれます。

- Step 2** [カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウを閉じるには、[OK] をクリックします。

# perfmon カウンタ データのローカル ロギング

RTMT では、さまざまな perfmon カウンタを選択して、ローカルにロギングすることができます。その perfmon CSV ログのデータは、パフォーマンス ログ ビューアを使用して表示できます。

## perfmon カウンタ ロギングの開始

CSV ログファイルへの perfmon カウンタ データのロギングを開始するには、次の手順を実行します。

### Procedure

- Step 1** パフォーマンス モニタリング カウンタを検索して表示します。
- Step 2** perfmon カウンタをチャート形式で表示している場合は、データ サンプル情報が必要な対象のグラフを右クリックし、[カウンタ ロギングの開始 (Start Counter(s) Logging)] を選択します。
- [カウンタ ロギングの設定 (Counter Logging Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。
- Step 3** 画面上のすべてのカウンタを記録するには (チャート形式および表形式のいずれも)、ウィンドウの一番下にあるカテゴリ名タブを右クリックして、[カウンタ ロギングの開始 (Start Counter(s) Logging)] を選択します。
- [カウンタ ロギングの設定 (Counter Logging Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。
- Step 4** [Maximum file size] と [maximum number of files] パラメータを設定します。

**Step 5** [ロガー ファイル名 (Logger File Name)] フィールドに、ファイル名を入力して [OK] をクリックします。

RTMT は、ユーザのホーム ディレクトリにある .jrtmt ディレクトリ内のログ フォルダに CSV ログ ファイルを保存します。たとえば、Windows ではパスが D:\Documents and Settings\userA\.jrtmt\log となり、Linux では /users/home/.jrtmt/log となります。

ファイルの数とサイズを制限するには、特定サービスのトレース出力設定でファイルパラメータの最大ファイルサイズと最大数を、Cisco Unified Serviceability の [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで設定します。『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

**Note** Perfmon カウンタのログイングをすでに開始しており、最大ファイルサイズと最大ファイル数を変更する場合は、まずカウンタを停止してから、[maximum file size] と [number of files parameters] を再設定する必要があります。パラメータをリセットした後、perfmon カウンタのログイングを再開できます。

---

## perfmon カウンタ ログイングの停止

perfmon カウンタ データのログイングを停止するには、次の手順を実行します。

### Procedure

---

**Step 1** パフォーマンス モニタリング カウンタを検索して表示します。

**Step 2** perfmon カウンタをチャート形式で表示している場合は、カウンタ ログイングが開始されているグラフを右クリックし、[カウンタ ログイングの停止 (Stop Counter(s) Logging)] を選択します。画面上のすべてのカウンタのログイングを停止するには (チャート形式および表形式のいずれも)、ウィンドウの一番下にあるカテゴリ名タブを右クリックして、[カウンタ ログイングの停止 (Stop Counter(s) Logging)] を選択します。

---

## データ サンプルの設定

[カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウには、カウンタのデータ サンプルを設定するためのオプションがあります。[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインに表示される perfmon カウンタには、経時的なデータのサンプルが緑色の点で表示されます。収集するデータ サンプルの数やチャートに表示するデータ点の数は設定することができます。データ サンプルを設定した後は、[すべてのデータを表示/現在のデータを表示 (View All Data/View Current Data)] メニュー オプションを使用して情報を表示できます。

カウンタのために収集するデータ サンプルの数を設定するには、次の手順に従ってください。

## Procedure

- Step 1** カウンタを検索、表示します。
- Step 2** データ サンプル情報が必要な対象のカウンタをクリックし、[システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [モニタリングのプロパティ (Monitoring Properties)] の順に選択します。
- [カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウには、カウンタの説明のほか、データ サンプルを設定するためのタブが表示されます。この説明には、ホストアドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、およびカウンタの内容の概要が含まれます。
- Step 3** カウンタのデータ サンプル数を設定するには、[データ サンプル (Data Sample)] タブをクリックします。
- Step 4** [データ サンプルの数 (No. of data samples)] ドロップダウン リストボックスで、サンプル数を選択します (100 ~ 1000)。
- デフォルトは 100 です。
- Step 5** [チャートに表示するデータ ポイント数 (No. of data points shown on chart)] ドロップダウン リストボックスで、チャートに表示するデータ ポイントの数を選択します (10 ~ 50)。
- デフォルトは 20 です。
- Step 6** 次のいずれかのパラメータをクリックします。
- [絶対値 (Absolute)]: 一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在のステータスを表示する場合に選択します。
  - [差分 (Delta)]: 現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分を表示する場合に選択します。
  - [差分比率 (Delta Percentage)]: カウンタパフォーマンスの変化を比率で表示する場合に選択します。
- Step 7** [カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウを閉じ、[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインに戻るには、[OK] をクリックします。

## カウンタデータの表示

パフォーマンスカウンタで収集されたデータを表示するには、次の手順に従ってください。

### Procedure

- Step 1** [RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインで、データ サンプルを表示するカウンタのカウンタ チャートを右クリックします。
- Step 2** [すべてのデータを表示 (View All Data)] を選択します。

カウンタ チャートには、サンプリングされたすべてのデータが表示されます。緑色の点は近接して表示されます。

**Step 3** 現在表示されているカウンタを右クリックします。

**Step 4** [現在のデータを表示 (View Current)] を選択します。

カウンタ チャートには、最後に設定され、収集されたデータ サンプルが表示されます。

## Perfmon ログ ビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールのログ ファイル

パフォーマンス ログ ビューアには、選択したカウンタのデータを示すチャートが表示されます。下部のペインには、選択したカウンタ、それらのカウンタの色凡例、表示オプション、平均値、最小値、および最大値が表示されます。

次の表では、パフォーマンス ログ ビューアで使用できるさまざまなボタンの機能について説明します。

**Table 1:** パフォーマンス ログ ビューア

ボタン	関数
カウンタの選択 (Select Counters)	パフォーマンス ログ ビューアに表示するカウンタの追加を可能にします。カウンタを表示しない場合は、カウンタの横にある [表示 (Display)] カラムのチェックマークを外します。
Reset View	パフォーマンス ログ ビューアを初期のデフォルト表示にリセットします。
ダウンロードしたファイルの保存 (Save Downloaded File)	ローカル コンピュータへのログ ファイルの保存を可能にします。

## Perfmon ログ ビューアでのログ ファイルの表示

パフォーマンス ログ ビューアには、perfmon CSV ログ ファイルからのカウンタのデータがグラフィック形式で表示されます。パフォーマンス ログ ビューアを使用して、収集したローカル perfmon ログのデータを表示することも、Real-time Information Server Data Collection (RISDC) perfmon ログのデータを表示することもできます。

### Before you begin

ローカル perfmon ログは、コンピュータで選択し、ローカルに保存したカウンタのデータで構成されます。

### Procedure

**Step 1** [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス ログ ビューアを開く (Open Performance Log Viewer)] の順に選択します。

**Step 2** 表示する perfmon ログのタイプを選択します。

- RisDC Perfmon ログについては、次の手順を実行します。
  - a. [Perfmon ログの場所の選択 (Select Perfmon Log Location)] セクションで RisDC Perfmon ログを選択します。
  - b. リスト ボックスからノードを選択します。
  - c. [開く (Open)] を選択します。
  - d. ファイルを選択し、[ファイルを開く (Open File)] を選択します。
  - e. 表示するカウンタにチェックマークを付けます。
  - f. [OK] を選択します。
- ローカルに保存されたデータについては、次の操作を実行します。
  - a. [ローカル Perfmon ログ (Local Perfmon Logs)] を選択します。
  - b. [開く (Open)] を選択します。
  - c. ファイル ディレクトリを参照します。
  - d. 表示するファイルを選択するか、ファイル名フィールドにファイル名を入力します。
  - e. [開く (Open)] を選択します。
  - f. 表示するカウンタにチェックマークを付けます。
  - g. [OK] を選択します。

**Step 3** 表示するカウンタを選択します。

**Step 4** [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

- Real-Time Monitoring Tool は、ユーザのホーム ディレクトリにある .jrtmt ディレクトリ内のログ フォルダに perfmon CSV ログ ファイルを保存します。Windows ではパスが D:\Documents and Settings\userA\.jrtmt\log となり、Linux では /users/home/.jrtmt/log となります。

- RISDC perfmon ログイングは、Troubleshooting Perfmon データ ログイングとしても知られていません。RISDC perfmon ログイングを有効にすると、サーバは問題のトラブルシューティングに使用されるデータを収集します。IM and Presence Service は短期間に大量のデータを収集するので、RISDC perfmon データ ログイング (Troubleshooting perfmon データ ログイング) を有効にする時間を制限するようにしてください。
- カラムの見出しを選択することにより、各カラムを整理できます。カラムの見出しを最初に選択したときは、レコードが昇順で表示されます。上向きの小さい三角形が、昇順を示します。カラムの見出しを再び選択すると、レコードは降順で表示されます。下向きの小さい三角形が、降順を示します。カラムの見出しをもう一度選択すると、レコードのソートは解除されます。

## パフォーマンス ログ ビューアの拡大と縮小

パフォーマンス ログ ビューアには、チャートの一部を拡大および縮小できるズーム機能が備わっています。

### Procedure

- Step 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
    - [System] を選択します。
    - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
    - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
  - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] の順に選択します。
- Step 2** カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。
- ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。
- Step 3** モニタするパフォーマンス カウンタをダブルクリックします。
- Step 4** 次のいずれかの操作を実行します。

項目	アクション (Action)
チャートの一部を拡大する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マウスの左ボタンをクリックし、チャート内で関心のあるエリアにドラッグします。</li> <li>• 必要な領域を選択してから、マウスの左ボタンを放します。</li> </ul>

項目	アクション (Action)
チャートを初期のデフォルト表示にリセットする	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ビューのリセット (Reset View)] を選択します。</li> <li>• チャートを右クリックし、[リセット (Reset)] を選択します。</li> </ul>

## Microsoft パフォーマンス ツールを使用した Perfmon ログ ファイルの表示



**Note** [パフォーマンス (Performance)] にアクセスする方法は、コンピュータにインストールされている Windows のバージョンによって異なります。

### Procedure

- Step 1** [スタート (Start)] > [設定 (Settings)] > [コントロール パネル (Control Panel)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [パフォーマンス (Performance)] の順に選択します。
- Step 2** アプリケーション ウィンドウで次の操作を実行します。
- マウスの右ボタンをクリックします。
  - [プロパティ (Properties)] を選択します。
- Step 3** [システム モニタのプロパティ (System Monitor Properties)] ダイアログボックスで [ソース (Source)] タブを選択します。
- Step 4** perfmon ログ ファイルをダウンロードしたディレクトリを参照し、perfmon csv ファイルを選択します。ログ ファイルに使用される命名規則は PerfMon\_&lt;node&gt;\_&lt;month&gt;\_&lt;day&gt;\_&lt;year&gt;\_&lt;hour&gt;\_&lt;minute&gt;.csv です。たとえば、PerfMon\_172.19.240.80\_06\_15\_2005\_11\_25.csv となります。
- Step 5** [適用 (Apply)] を選択します。
- Step 6** [時間の範囲 (Time Range)] を選択します。表示する perfmon ログ ファイルで時間の範囲を指定するには、適切な開始時刻と終了時刻までバーをドラッグします。
- Step 7** [カウンタの追加 (Add Counters)] ダイアログボックスを開くには、[データ (Data)] タブを選択し、[追加 (Add)] を選択します。
- Step 8** [パフォーマンス オブジェクト (Performance Object)] ドロップダウンリストボックスから perfmon オブジェクトを選択します。オブジェクトに複数のインスタンスがある場合は、[すべてのインスタンス (All instances)] を選択するか、表示するインスタンスだけを選択します。

- Step 9** [すべてのカウンタ (All Counters)] を選択することも、表示するカウンタだけを選択することもできます。
- Step 10** [追加 (Add)] を選択して、選択したカウンタを追加します。
- Step 11** カウンタの選択が終了したら、[閉じる (Close)] を選択します。

## トラブルシューティング

### perfmon データ ログのトラブルシューティング

Troubleshooting perfmon データ ログ機能は、Cisco TAC がシステムの問題を識別する際に役立ちます。Troubleshooting perfmon データ ログ機能を有効にすると、選択したノードでの一連のシステムとオペレーティング システムのパフォーマンス統計情報の収集が開始されます。収集された統計情報には、システム診断に使用できる総合的な情報が含まれます。

Troubleshooting perfmon データ ログ機能は、システムの状態に関する総合的な情報を提供する一連の perfmon カウンタから統計情報を収集するように、自動的に設定されます。Troubleshooting Perfmon データ ログ機能が有効である場合、CPU 使用率の増加は 5 パーセント未満であり、使用されるメモリ量にも目立った増加はなく、毎日約 50 MB の情報がログファイルに書き込まれることが推測されます。

Troubleshooting perfmon データ ログ機能を使用して、次の管理タスクを実行できます。

- Troubleshooting perfmon データ ログ機能用のトレース フィルタを有効または無効にする。
- 各サーバで事前定義された一連のシステムとパフォーマンス オブジェクトおよびカウンタをモニタする。
- モニタされたパフォーマンス データをサーバ上のアクティブ ログ パーティションの `var/log/active/cm/log/ris/csv` ディレクトリに CSV ファイル形式で記録する。ログファイルに使用される命名規則は `PerfMon_<node>_<month>_<day>_<year>_<hour>_<minute>.csv` です。たとえば、`PerfMon_172.19.240.80_06_15_2005_11_25.csv` となります。ポーリング レートを指定する。このレートは、パフォーマンス データが収集され、ログに記録されるレートを示します。ポーリング レートは 5 秒まで縮めることができます。デフォルトのポーリング レートは 15 秒です。
- Microsoft Windows パフォーマンス ツールを使用するか、Real-Time Monitoring Tool のパフォーマンス ログ ビューアを使用して、ログ ファイルをグラフィック形式で表示する。
- ディスクに保存するログ ファイルの最大数を指定する。この制限を超えると、最も古いログ ファイルが削除される方法でログ ファイルは自動的にページされます。デフォルトは 50 ファイルです。
- メガバイト単位の最大ファイルサイズに基づいて、ログ ファイルのロールオーバー基準を指定する。デフォルト値は 2 MB です。
- Real-Time Monitoring Tool の Trace & Log Central 機能またはコマンドライン インターフェイスを使用して、Cisco RIS Data Collector PerfMonLog ログ ファイルを収集する。

Troubleshooting perfmon データ ログ機能は、次の perfmon オブジェクト内の次のカウンタから情報を収集します。



**Note** Cisco Unity Connection カウンタは、troubleshooting perfmon データ ログに記録されません。

- Database Change Notification Server オブジェクト:
  - クライアント
  - CNProcessed
  - QueueDelay
  - QueuedRequestsInDB
  - QueuedRequestsInMemory
- Database Local DSN オブジェクト:
  - CcmDbSpace\_Used
  - CcmtmpDbSpace\_Used
  - CNDbSpace\_Used
  - LocalDSN
  - RootDbSpace\_Used
  - SharedMemory\_Free
  - SharedMemory\_Used
- Enterprise Replication DBSpace Monitors オブジェクト:
  - ERDbSpace\_Used
  - ERSBDbSpace\_Used
- IP オブジェクト:
  - In Receives
  - In HdrErrors
  - In UnknownProtos
  - In Discards
  - In Delivers
  - Out Requests
  - Out Discards
  - Reasm Reqds

- Reasm Oks
- Reasm Fails
- Frag OKs
- Frag Fails
- Frag Creates
- InOut Requests
  
- Memory オブジェクト:
  - % Page Usage
  - % VM Used
  - % Mem Used
  - Buffers Kbytes
  - Cached KBytes
  - Free KBytes
  - Free Swap KBytes
  - HighFree
  - HighTotal
  - Low Total
  - Low Free
  - Page Faults Per Sec
  - Page Major Faults Per Sec
  - ページ
  - Pages Input
  - Pages Input Per Sec
  - Pages Output
  - Pages Output Per Sec
  - SlabCache
  - SwapCached
  - Shared Kbytes
  - Total Kbytes
  - Total Swap Kbytes
  - Total VM Kbytes

- Used Kbytes
- Used Swap Kbytes
- Used VM Kbytes
  
- Network Interface オブジェクト:
  - Rxバイト
  - RXパケット
  - Rxエラー
  - Rx Dropped
  - Rx Multicast
  - Tx Bytes
  - Txパケット
  - Tx Errors
  - Tx Dropped
  - 合計バイト数
  - 合計パケット数 (Total Packets)
  - Tx QueueLen
  
- Number of Replicates Created and State of Replication オブジェクト:
  - Replicate\_State
  
- Partition オブジェクト:
  - % CPU Time
  - %Used
  - Await Read Time
  - Await Time
  - Await Write Time
  - キューの長さ (Queue Length)
  - Read Bytes Per Sec
  - Total Mbytes
  - Used Mbytes
  - Write Bytes Per Sec
  
- Process オブジェクト:

- % Memory Usage
  - Data Stack Size
  - Nice
  - PID
  - STime
  - % CPU Time
  - Page Fault Count
  - Process Status
  - Shared Memory Size
  - VmData
  - VmRSS
  - VmSize
  - Thread Count
  - Total CPU Time Used
- Processor オブジェクト:
    - Irq Percentage
    - Softirq Percentage
    - IOwait Percentage
    - User Percentage
    - Nice Percentage
    - System Percentage
    - Idle Percentage
    - %CPU Time
- System オブジェクト:
    - Allocated FDs
    - Freed FDs
    - Being Used FDs
    - Max FDs
    - Total Processes
    - Total Threads
    - Total CPU Time

- TCP オブジェクト:
  - Active Opens
  - Passive Opens
  - Attempt Fails
  - Estab Resets
  - Curr Estab
  - In Segs
  - Out Segs
  - Retrans Segs
  - InOut Segs
  
- Thread オブジェクト (Troubleshooting Perfmom データ ロガーは、Unified Communications Manager スレッドのみを記録します):
  - %CPU Time
  
- Cisco CallManager オブジェクト:
  - CallManagerHeartBeat
  - CallsActive
  - CallsAttempted
  - CallsCompleted
  - InitializationState
  - RegisteredHardwarePhones
  - RegisteredMGCPGateway
  
- Cisco SIP Stack オブジェクト:
  - CCBsAllocated
  - SCBsAllocated
  - SIPHandlerSDLQueueSignalsPresent
  
- Cisco CallManager System Performance オブジェクト:
  - AverageExpectedDelay
  - CallsRejectedDueToThrottling
  - CodeRedEntryExit
  - CodeYellowEntryExit
  - QueueSignalsPresent 1-High

- QueueSignalsPresent 2-Normal
  - QueueSignalsPresent 3-Low
  - QueueSignalsPresent 4-Lowest
  - QueueSignalsProcessed 1-High
  - QueueSignalsProcessed 2-Normal
  - QueueSignalsProcessed 3-Low
  - QueueSignalsProcessed 4-Lowest
  - QueueSignalsProcessed Total
  - SkinnyDevicesThrottled
  - ThrottlingSampleActivity
  - TotalCodeYellowEntry
- Cisco TFTP Server オブジェクト:
- BuildAbortCount
  - BuildCount
  - BuildDeviceCount
  - BuildDialruleCount
  - BuildDuration
  - BuildSignCount
  - BuildSoftKeyCount
  - BuildUnitCount
  - ChangeNotifications
  - DeviceChangeNotifications
  - DialruleChangeNotifications
  - EncryptCount
  - GKFoundCount
  - GKNotFoundCount
  - HeartBeat
  - HttpConnectRequests
  - HttpRequests
  - HttpRequestsAborted
  - HttpRequestsNotFound

- HttpRequestsOverflow
- HttpRequestsProcessed
- HttpServedFromDisk
- LDFoundCount
- LDNotFoundCount
- MaxServingCount
- リクエスト
- RequestsAborted
- RequestsInProgress
- RequestsNotFound
- RequestsOverflow
- RequestsProcessed
- SegmentsAcknowledged
- SegmentsFromDisk
- SegmentsSent
- SEPFFoundCount
- SEPNotFoundCount
- SIPFoundCount
- SIPNotFoundCount
- SoftkeyChangeNotifications
- UnitChangeNotifications

## Perfmon データ ログिंगのトラブルシューティング

perfmon のデータ ログング機能を使用して perfmon オブジェクト内のカウンタから情報を収集するには、次の手順に従います。

### Before you begin

- RISDC perfmon ログングも Troubleshooting Perfmon データ ログングとして知られています。RISDC perfmon ログングを有効にすると、サーバは問題のトラブルシューティングに使用されるパフォーマンス データを収集します。
- RIS Data Collector (RISDC) の perfmon ログを有効にすると、Unified Communications Manager および IM and Presence Service は、サーバ上に書き込まれるログのシステムに関する情報を収集します。

- RISDC perfmon ログを有効または無効にするには、管理インターフェイスで、[システム (System)]>[サービスパラメータ (Service Parameter)]の順に選択し、[サービス (Service)] リストボックスから [Cisco RIS Data Collector] サービスを選択します。デフォルトでは、RISDC perfmon ログイングは有効になります。

## Procedure

- Step 1** 管理インターフェイスで、[システム (System)]>[サービスパラメータ (Service Parameter)]の順に選択します。
- Step 2** [サーバ (Server)] リストボックスで、サーバを選択します。
- Step 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストボックスから [Cisco RIS Data Collector] を選択します。
- Step 4** 次の表の説明に従って、適切な設定を入力します。

**Table 2: Perfmon データログイングパラメータのトラブルシューティング**

フィールド	説明
Enable Logging (ログイングを有効化)	ドロップダウンボックスから [True] を選択すると perfmon データ ログイングのトラブルシューティングが有効になり、[False] を選択すると無効になります。デフォルト値は False です。
Polling Rate	ポーリングレートの間隔 (秒単位) を入力します。5 (最小) ~ 300 (最大) の値を入力できます。デフォルト値は 15 です。

フィールド	説明
Maximum No. of Files	<p>ディスクに保存する Troubleshooting Perfmon データ ログギング ファイルの最大数を入力します。1 (最小) ~ 100 (最大) の値を入力できます。デフォルト値は 50 です。</p> <p>[最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] パラメータと [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] パラメータを設定する際は、ストレージ容量を考慮してください。[最大ファイル数 (Maximum Number of Files)] の値と [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] の値を掛けたときに、100 MB を超えない値にすることが推奨されます。</p> <p>ファイル数が、このフィールドに指定した最大ファイル数を超えると、タイムスタンプの最も古いログファイルが削除されます。</p> <p><b>Caution</b> このパラメータを変更する前に別のコンピュータにログ ファイルを保存しておかないと、ログファイルが失われるおそれがあります。</p>
ファイルの最大サイズ (MB) (Maximum File Size (MB))	<p>新しいファイルが開始される前に、perfmon ログファイルに保存する最大ファイルサイズ (メガバイト単位) を入力します。1 (最小) ~ 500 (最大) の値を入力できます。デフォルト値は 2 MB です。</p> <p>[最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] パラメータと [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] パラメータを設定する際は、ストレージ容量を考慮してください。[最大ファイル数 (Maximum Number of Files)] の値と [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] の値を掛けたときに、100 MB を超えない値にすることが推奨されます。</p>

**Step 5** [保存] を選択します。

**Note** RTMT を使用してログ ファイルをダウンロードすることにより、サーバ上の Cisco RIS Data Collector サービスに関するログ ファイルを収集できます。CLI を使用してログ ファイルをダウンロードする場合は、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。ログ ファイルを収集した後は、RTMT でパフォーマンス ログ ビューアを使用するか、Microsoft Windows パフォーマンス ツールを使用してログ ファイルを表示できます。

---